

兵 医 広 報

2018
AUTUMN
vol. 244

特集1 実際の医療現場を見据えた
「チーム医療教育」

特集2 理事長就任のご挨拶



実際の医療現場を見据えた「チーム医療教育」

現場での学びを大切に 互いに育ちあう 教育体制

学校法人兵庫医科大学は、兵庫医科大学、兵庫医療大学、兵庫医科大学病院、兵庫医科大学ささやま医療センターなど、西宮・神戸・篠山の3キャンパスを持つ日本でも数少ない「医療総合大学」です。兵庫県西宮市で40年以上の歴史をもつ兵庫医科大学と、昨年開学10周年を迎えた兵庫医療大学は、研究・カリキュラムにおいて密接につながり合い、互いに育ちあう教育体制を整えています。実際の医療現場での豊富な実習経験と、人的交流がこれからの医療に必要不可欠な「チーム医療」への意識を育てていくと考えています。



兵庫医科大学



兵庫医科大学病院



兵庫医療大学



兵庫医科大学ささやま医療センター

●チーム医療は、なぜ必要なのか

かつての医療現場では、患者さんへのケアの内容を主治医が診察し、各専門職に指示するシステムが一般的でした。そのため、プロフェッショナル同士のつながりが薄く、職種ごとの優れた知識や技術も足し算にしかありませんでした。しかし、高度化・複雑化が進む現代の医療現場で、患者さんの多様な問題に最も適した対処ができる医療の提供が必要になってきました。そのため、各医療専門職種同士がチームで連携・協力しケアすることで、多角的かつ専門的な立場からアプローチできる「チーム医療」が必要とされています。

チーム医療の概念図



実践力を培うカリキュラムポイント

チーム医療を学ぶためには、各医療専門職者が集結することが不可欠です。兵庫医科大学と兵庫医療大学では、学部を超えた「合同教育プログラム」を積極的に取り入れ、それぞれの学部の専門領域を学び合うことで実際の現場で生きる「実践力」を培っています。また、幅広い視野を持った医療人育成には各キャンパス間を横断した実習体験も欠かすことはできません。





●チーム医療演習の主なプログラム

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
ガイダンス IRAT(個人試験) アイスブレイク TRAT(グループ試験) フィードバック グループ討議	チーム医療に おける特別講義	グループ討議 発表準備	発表会	症例解説フィードバック 模擬カンファレンス 試験 試験解説講義 全体講評 まとめ



兵庫医科大学 × 兵庫医療大学
「チーム医療演習」

兵庫医科大学 医学部3年次生と兵庫医療大学 薬学部・看護学部・リハビリテーション学部4年次生が、毎年西宮キャンパスに集まり、合同で「チーム医療演習」を行っています。

この演習授業は、医療職種間の相互理解を深めるとともに、現代の医療に求められる「チーム医療」を駆使して患者さんの問題を解決する能力を身につけることを目的としています。学生たちは、学部混成の6～7名単位のグループに分かれ、医療チーム内における自分の役割や医療従事者同士のコミュニケーションの重要性を理解しながら、これから実践していく「チーム医療」についての意識を高めていきます。

【チーム医療演習の行動目標】



チーム一丸となって課題へ取り組む TBL 学習

チーム医療演習では、学習の柱としてTBL(Team-based Learning:チーム基盤型学習)を採用し、個人学習(予習)・グループ学習・全体などの多様な形式で学習を進めていきます。まず予習資料を配付し、その内容についてしっかりと理解しているかどうかのテストを個人・グループでそれぞれ行い、そのうえで与えられた症例シナリオについてグループで討議するのです。



授業を終えて



橋 良大さん
(薬学部4年次)

七條 碩さん
(医学部3年次)

貞廣 日奈子さん
(看護学部4年次)

吉村 悠希さん
(医学部3年次)

鎌田 瑛さん
(リハビリテーション学部
理学療法学科4年次)

田村 南々海さん
(看護学部4年次)

廣瀬 真衣さん
(薬学部4年次)

STUDENT COMMENTS

授業を受けた学生の感想

さまざまな学部の人たちと患者さんの治療に対する方針を話し合うことで、他学部の医療に対するアプローチの仕方を学ぶことができました。

橋 良大さん
(薬学部4年次)

自分の学部で得られる知識や技術だけでは、1人の患者さんの治療を完結させることができないということを改めて感じました。

七條 碩さん
(医学部3年次)

授業をとおして、他職種間で連携し、退院後の生活を見据えた患者さんやご家族に寄り添う看護をしていきたいと改めて思いました。

貞廣 日奈子さん
(看護学部4年次)

4年次生になると、より専門的なことを学んでいるので、みんなで討論するレベルが上がっていたし、自分自身も討論内容を理解することがとても楽しく感じました。

廣瀬 真衣さん
(薬学部4年次)

授業の中では、できるだけ他学部生からそれぞれの分野についての情報をたくさん聞き出し、看護師として患者さんの身近な問題を解決できるように心がけました。

田村 南々海さん
(看護学部4年次)

それぞれの学部が意見を言いやすい環境にするために話を進めていくのが難しかったです。また、それぞれの職種での役割を理解できても他職種が提案する治療を理解することが難しく、他職種の分野においても勉強する必要があると感じました。

鎌田 瑛さん
(リハビリテーション学部
理学療法学科4年次)

病気の病態説明は、臨床現場で医師が担う役割だと思われるので、病因や治療方針について、他学部生たちに分かりやすく伝えられるように努めました。みんなで患者さんに寄り添って、治療やその後のことを考える姿勢で臨めて良かったです。

吉村 悠希さん
(医学部3年次)

TEACHER MESSAGES

担当教員からのメッセージ

兵庫医科大学
医学教育センター センター長
成瀬 均



チーム医療(論)演習は医療大学開学時から続いており、2大学連携科目の中ではもっとも大きな行事と言ってよいでしょう。異なる学部の学生同士と一緒に楽しそうに勉強している光景は、我々もうれしくなります。

しかしながら、近年、多職種連携教育、チーム医療重視の影響は医学教育にも及び、どこの大学でもチーム医療教育が行われるようになってきました。その中で他大学にない本学の特徴としては、運営に能動的学修法のTBLを取り入れていること、検討した症例のカンファレンスの様子を学生の前でプロの医療職が演じて見せる模擬カンファレンス、などが挙げられます。

兵庫医療大学
共通教育センター 准教授
常見 幸



2大学の連携科目では、4学部5学科の学生が学部混成の小グループで患者の問題解決に取り組むことにより、他領域の職種の役割への理解を深め、コミュニケーション能力を養うことができます。さらに、グループ討議において他の職種から求められる自分の職種の専門性を認識し、責任感をもって行動できるようになることから、専門職としての能力向上にも役立ちます。

学生のみなさんには、これらの経験を活かし、将来の医療現場で患者中心のチーム医療を支える一員として大いに活躍してくれることを期待しています。

特集2 理事長就任のご挨拶

2018年10月より理事長を拝命いたしました。大学のコンプライアンス、理事会のガバナンスについて社会が不信を抱いている時に大役を仰せつかり、身の引き締まる思いですが、誠心誠意頑張る所存です。

行動目標

建学の精神と第3次中期事業計画を基本として、さらに未来に向かって飛躍させる事業に取り組みます。当面の責務は、「(1)2025年度に臨床教育の充実にもつながる新病院棟を竣工させ、西宮キャンパスの刷新を実現すること」「(2)神戸キャンパスで医療総合大学としての教学基盤を確立し、質の高いチーム医療の実現のための生涯教育支援体制を構築すること」「(3)篠山キャンパスを『地域包括ケアを支える医療人』の育成と実践の場にする」と考えています。内外のステイクホルダーのみなさまに対して法人の運営情報を開示し、公正なマネジメントを進めて参ります。



力を入れること

「顧客」が満足し、笑顔になる大学・病院作り

学生や患者さんだけでなく、社会全体も顧客です。また、理事長である私にとっては全教職員も顧客だと言えます。これらの顧客すべてが満足し、笑顔になる大学や病院を作っていきたいと考えています。学生には学ぶ楽しさを、患者さんには満足を、教職員には働き甲斐を感じることができ環境を提供し、社会には市民講座や研究開発で貢献することをめざして参ります。

業務プロセスの見直し

働き方改革法により、超過勤務の制限や有休取得の義務化など一人当たりの労働時間は減少します。こうした社会の流れに対応するためには、現在の業務を見直し、一人当たりの労働生産性を上げなくてはなりませんので、安全を担保した上で、コストとベネフィット、情報の共有方法、処理スピード、兼業などの点から慣例的に行っていた業務の妥当性を再検討していきたいと考えています。具体的には、事務職を中心とした全構成員に対してマネジメント教育や接遇教育を強化し、業務改善の成果を客観的に評価した上で、年齢にかかわらず、努力をして成果を出せば報われる制度を構築したいと思います。

財務基盤の安定化

これから新病院棟の建設という大事業を控えていますので、全教職員が経営感覚を持ちながら効率化や集約化などについて考える視点を持ち、常に「自分には何ができるか」を考えることで財務基盤を安定させます。

前理事長が培い、育てて来た本法人をさらに発展させ、新たなステージを拓くために上記の事項を心がけますので、ご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2018年10月1日
学校法人兵庫医科大学 理事長
たしろ ちから
太城 力良

新家莊平 前・理事長 退任・旭日重光章受章祝賀会

2018年10月8日、リーガロイヤルホテル(大阪)にて、新家莊平 前・理事長 退任・旭日重光章受章祝賀会を執り行いました。兵庫県 井戸敏三知事や日本私立医科大学協会 寺野彰会長をはじめ450名以上の方々にご出席いただき、たくさんのお祝いのお言葉をいただきました。

また、祝賀会の終盤、新家 前・理事長は「長きに亘り、ご支援いただきましたみなさまに心からお礼申し上げます」とこれまでの歩みを振り返りながらお礼の言葉を述べました。



CONTENTS

- 01 特集1
実際の医療現場を見据えた「チーム医療教育」
- 06 特集2
理事長就任のご挨拶
- 08 NEWS & TOPICS
 - ・脳卒中の病型を瞬時に判別できるシステムを開発
 - ・アスピリンの「心血管疾患」や「癌」の発症予防効果が体重や用量の影響を受けることを解明
 - ・西宮市内の小学校児童に「暑中見舞いはかき」を寄贈
 - ・兵庫医療大学公式キャラクター「ふーたん」誕生
 - ・篠山ボランティアグループによる「書道展」を開催
 - ・「神経内科」から「脳神経内科」に名称を変更
 - ・「働き方改革講演会」を実施
 - ・慢性関節リウマチの予防・未病診断の新しい分子マーカーを発見
 - ・学生にゴニオメーターを贈呈
 - ・「丹波篠山デカンショ祭」に参加
 - ・「兵庫医療大学 オープンキャンパス」を開催
 - ・「兵庫医科大学 オープンキャンパス」を開催
 - ・「平成30年度認定看護師教育課程合同フォローアップ研修」を実施
 - ・「なるほど医学体験! HANSHIN健康メッセ2018」を主催
 - ・「THE世界大学ランキング2019」に兵庫医科大学がランクイン
 - ・「手術支援ロボット ダヴィンチXi」を導入
 - ・「日経ウーマノミクスシンポジウム」に協力校として参加
 - ・医療従事者が「怒り」の心情と付き合うための講演会を開催
 - ・癌幹細胞の新しい制御機構を解明
 - ・記憶力の低下 呼吸が原因の一つであることを発見
 - ・炎症の回復期に出現し、組織修復を促す新しい免疫細胞を発見
- 15 卒業生INTERVIEW
やりたいことをやる自由をもう一度
株式会社ボラリス 社長 森 剛士さん(兵庫医科大学 1996年卒)
- 17 HYO-i LAB -研究紹介-
理想を形にする一からの積み重ね 自己免疫疾患研究を健康寿命の増進へ
兵庫医科大学 病理学講座 病理診断部門 助教 西浦 弘志
- 19 2018年度科学研究費助成事業交付内定一覧/
研究助成金等の交付状況
- 20 チームの力
～あらゆる専門領域から考える～
骨粗鬆症・サルコペニア・フレイル カンファレンス
- 21 STUDENT INFORMATION
授業CLOSE UP
「地域医療特別演習」兵庫医科大学
「助産診断技術学II」兵庫医科大学
課外活動REPORT
「西日本医科学学生 総合体育大会等結果報告」兵庫医科大学
「オープンキャンパスで活躍する学生スタッフ」兵庫医科大学
- 24 人事情報/受賞・表彰など
- 25 主な行事予定(11~1月)/募金状況

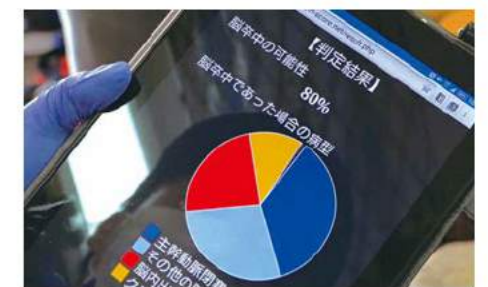


～脳神経外科学 吉村主任教授らによる研究発表～ 脳卒中の病型を瞬時に判別できるシステムを開発

兵庫医科大学 脳神経外科学 吉村 紳一主任教授、内田 和孝助教および臨床疫学 森本 剛教授らの研究グループは、早期に専門的治療を要する脳卒中の疑いがある患者さんを、適切な治療施設へ素早く搬送することができるように、病型予測が瞬時に可能な病院前脳卒中病型判別システム「JUST Score」を開発しました。発症直後から8時間以内の脳梗塞に対する血管内治療の有効性は、以前から報告されていましたが、適切な施設への搬送には時間がかかり、血管内治療の実施施設が偏在しているため、病型的確な見極めと適切な施設への迅速な搬送が課題でした。そこで、救急隊員が発症現場で評価可能な項目*で、病型の分類に関連する因子を解析し、本システムを開発。また、開発したシステムの病型判別力を検証した結果、高い精度で病型を予測することができました。本システムは既に神戸市や西宮市など兵庫県内外の計14市町村の消防が導入しており、システムの活用により、処置が可能な施設により素早く搬送できることで回復率の向上が期待されます。なお、本研究成果は、2018年7月12日に、米国医学誌「Stroke」に掲載されました。



7月10日に実施した記者会見



瞬時に表示される判別結果画面

▶詳細は法人WEBへ

*年齢、既往歴、麻痺、けいれんの有無など



～国際共同研究成果が世界五大医学雑誌「The Lancet」に掲載～ アスピリンの「心血管疾患」や「癌」の発症予防効果が 体重や用量の影響を受けることを解明

2018年7月12日、兵庫医科大学 臨床疫学の森本剛教授ら国際共同研究グループによる研究の論文が、世界五大医学雑誌と言われる「The Lancet」誌に掲載されました。本研究は、低用量アスピリンがすべての成人に対して一括りに処方されていることによって、患者個人の効果に違いが出ているのではという仮説を証明するもので、英・オックスフォード大学のRothwell教授を筆頭に、米・ハーバード大学や伊・マリオネグリ研究所などと国を横断して実施。森本教授は、日本からのデータを統括し、世界中の11万7279名分の患者データを解析する役割を担いました。その結果、低用量アスピリンの有効性は、体重が70kg以下の患者に限られ、世界的にはこれらの体重基準を満たす患者は男性では20%、女性でも50%であり、低用量アスピリンと一括りにした処方では適切ではないことが世界で初めて明らかになりました。

【論題】
Effects of aspirin on risks of vascular events and cancer according to bodyweight and dose: analysis of individual patient data from randomised trials
(体重と用量に基づいたアスピリンの心血管イベント及び癌の発症予防の効果:ランダム化比較対照試験の統合解析)

【論文著者】
Rothwell PM(オックスフォード大学)、Cook NR(ハーバード大学)、Gaziano JM(ハーバード大学)、Price JF(エジンバラ大学)、Belch JFF(ダンディー大学)、Roncaglioni MC(マリオネグリ研究所)、森本 剛(兵庫医科大学臨床疫学)、Mehta Z(オックスフォード大学)

▶詳細は医科大WEBへ



7/9~13、9/10~14

兵庫医科大学病院にて院内感染の予防を目的に、今年も「クリーンハンドキャンペーン」を実施。すべての病院職員が改めて手指衛生の重要性を学びました。



7/18

「第14回阪神沿線健康講座」を芦屋市民センターで開催し、「アンチエイジングの方法」をテーマにした講演を行い、74名の参加がありました。



学校法人
お知らせ
西宮市内の小学校児童
に「暑中見舞いはがき」
を寄贈

学校法人兵庫医科大学は、地域貢献活動の一環として未来ある子どもたちへの教育に寄与するため、2018年7月19日、西宮市教育委員会を通じて、同市内にある6つの市立小学校の児童全員*に「暑中見舞いはがき」を寄贈しました。大切な人を思いながら手紙を書くことで子どもたちの豊かな情操を育む活動に貢献したことが認められ、9月13日には、同市教育委員会から本法人に対して感謝状が贈呈されました。



西宮市教育委員会から贈られた感謝状

*鳴尾小学校、鳴尾東小学校、高須小学校、高須西小学校、南甲子園小学校、甲子園浜小学校の計6校、計3,280枚

医療大
お知らせ
兵庫医療大学
公式キャラクター
「ふーたん」誕生

兵庫医科大学は昨年10周年を迎え、次の10年を見据えて多くの方に親しまれる大学公式キャラクターの公募を行いました。

在学生・教員・職員を対象に学内公募を実施。合計63点の応募があり、その中から、薬学部医療薬学科4年次生が描いたイラスト原案を元にキャラクターを制作しました。キャラクター名は、キャラクターデザインに似合い、ふくろうからイメージされる名前、大学名(HUHS)からイメージされる名前などから「ふーたん」に決定しました。



学校法人
イベント
～より働きやすい職場へ～
「働き方改革講演会」を
開催

2018年7月31日、西宮キャンパスにて「働き方改革講演会」を開催しました。これは、政府が進めている働き方改革の一環で「働き方改革関連法案」として労働基準法、労働安全衛生法等の法律の改正案が国会で6月29日に可決、成立したことを受け、社会保険労務士を講師に迎え、本法人の役員、管理職者に対して周知する目的で行ったものです。

教職員に関係する主な内容(抜粋)
(残業時間の上限規制)
原則として月45時間、年間360時間で臨時的な特別の事情がある場合でも、①年間720時間(時間外労働のみ)②1カ月における時間外労働及び休日労働できる時間は100時間未満③2～6カ月における期間の平均を80時間以内(休日労働含む)④月45時間を超える月は6回以内。ただし、医師については、5年間の適用除外。
(年次有給休暇の取得義務)
事業所において、10日以上有給休暇が付与される労働者に対し、使用者は時季を指定して年5日の付与を義務とする。

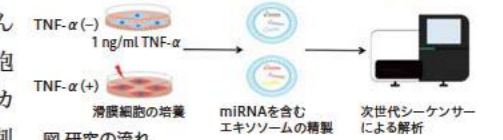
医療大
研究発表
～共通教育センター 芝崎准教授
および、京都大学による共同研究～
慢性関節リウマチの予防・未病診断
の新しい分子マーカーを発見

2018年8月11日、兵庫医科大学 共通教育センター 芝崎 誠司准教授が関わった研究論文が、米国学術誌「PLOS ONE」に掲載されました。

本研究は、京都大学との共同研究によるもので、関節リウマチ患者さんの滑膜培養細胞に炎症性サイトカインTNF-αで刺激を加え、分泌されたエクソソームを精製し、次世代シーケンサーにより解析。その結果、これまで発見がなかったマイクロRNA(miRNA)分子を発見しました。今回新たに発見されたmiRNAは、分子標的薬が効かない症例や、未病段階の診断マーカーとして期待されます。
▶詳細は医療大WEBへ



関節リウマチ (Photo: James Hellman, MD)



大学病院
お知らせ
～院内で芸術を味わうひとときを～
篠山ボランティアグループ
による「書道展」を開催

2018年8月8日から8月27日の期間、兵庫医科大学病院にて、篠山市出身の書道家である市野清鳳さんの「書道展」を開催しました。本展示会は、兵庫医科大学ささやま医療センターの受付案内やクリスマスコンサートの開催などとおして、患者さんに笑顔を届ける活動をしているボランティアグループ「ささゆり」が企画。連日、たくさんの患者さんが作品をご覧になり、和やかな時間を過ごされていました。



ささやま医療センターボランティアグループ「ささゆり」
「兵庫医科大学篠山病院」から「兵庫医科大学ささやま医療センター」と改称し移転開院された2010年に結成。玄関周辺に花を植えたプランターを並べたことが活動の始まりとなり、以来仲間を募り活動を続けている。

大学病院
お知らせ
～脳・神経の疾患を診療する
診療科として分かりやすく～
「神経内科」から
「脳神経内科」に名称を変更

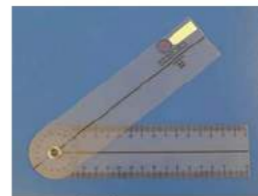
2018年10月1日より、兵庫医科大学病院 神経内科は、診療科名を「脳神経内科」に変更しました。従来の「神経内科」の名称は「精神科」や「心療内科」と混同されやすく、脳卒中や認知症など専門医療を必要とする患者さんが適切な時期に受診できていない場合が見受けられました。このため、今回の変更では、脳・神経の疾患を内科的な専門知識と技術をもって診療する診療科であることを、患者さんに分かりやすくすることを目的としています。診療内容の変更はなく、これまでどおり診療を行っていきます。

変更前	変更後
神経内科	脳神経内科

医療大
お知らせ
～リハビリテーション学部保護者が激励～
学生にゴニオメーター
を贈呈

2018年5月に、兵庫医科大学 リハビリテーション学部保護会よりリハビリテーション学部2年次生(11期生)に氏名入りゴニオメーター(関節角度の測定器具)が贈呈されました。以下は学生のお礼文です。

「この度は本当にありがとうございました。コンパクトで持ち運びやすく、名前が入っているので、実技練習のモチベーションにも繋がりました。大事に使っていききたいと思います」



贈呈されたゴニオメーター



理学療法学科



作業療法学科

ささやま
イベント
～教職員と地域の絆～
「丹波篠山デカンショ祭」
に参加

2018年8月15日、16日の2日間、「丹波篠山デカンショ祭」が開催され、ささやま医療センターは「ささやま医療センター教職員踊り子連」として参加しました。

本祭りには、地域共生の観点から2004年以降毎年続けて参加しており、今年も教職員が「デカンショ踊り」と呼ばれる丹波篠山に古くから伝わる盆踊りの技術や表現力を競うコンテストに参加。祭りの2週間前から篠山デカンショ節保存会会長の指導のもと練習に励み、地域の踊り子連とチームワークを競い合いました。練習の成果もあり、ささやま医療センター教職員踊り子連は「丹波新聞社賞」を受賞。お祭りを通じて、地域の方々とともに汗を流し、交流することができました。



デカンショ踊りで地域の方々と交流



ささやま医療センター教職員踊り子連

医療大 7/20
兵庫医科大学にて4年次生が「トリアージ実習」を実施。学生は医療者役と傷病者役に分かれて、真剣な眼差しで訓練に取り組みました。

大学病院 7/24、8/7
兵庫医科大学病院にて、「ふれあい看護体験」イベントを開催。30名の高校生が参加し、看護師という職業のやりがいを実感していました。

医療大 8/9
兵庫医科大学にてリハビリテーション学部4年次生を対象に「社会人スキル対策講座」を開催。就職活動のマナー講座や面接対策などを行いました。

ささやま 8/10
ささやま医療センターにて、篠山市消防本部協力の下「平成30年度第1回消防訓練」を実施。教職員37名が参加し、消火器の使用方法などを学びました。



～新たなプログラムで受験生をおもてなし～
「兵庫医療大学 オープンキャンパス」を開催

2018年8月4日、5日、25日、26日にオープンキャンパスを開催しました。天候にも恵まれ、4日間で高校生・受験生1,971名、保護者など同伴者1,326名、合わせて3,297名の方々にご参加いただきました。

今年度は、推薦入試を考える受験生向けに化学・小論文の対策講座を新たに実施したほか、在学生スタッフによるトークイベントなど、新たなプログラムを企画しました。参加した高校生・受験生からは「在学生スタッフと接して志望意欲が高まった」「入試制度が理解できた」という感想が寄せられました。



在学生特別イベント

学生スタッフによる受付

学科ガイダンス



～教育研究棟にて初開催～
「兵庫医科大学 オープンキャンパス」を開催

2018年8月9日、10日の2日間「オープンキャンパス」を開催しました。今回は今年度より利用を開始した教育研究棟での初めての開催となり、両日合わせて667名の方々にご参加いただきました。

野口学長の挨拶をはじめ、八木入試センター長による大学・入試概要説明、篠原主任教授による模擬授業「『ドクターX』と『ブラックペアン』から知る最新の外科手術」(9日)、五味主任教授による模擬授業「目は心の窓、身体は心の窓」(10日)を実施。

また、今年から学生食堂でのランチ体験や、新しい校舎のキャンパス見学を実施し、受験生からは「モチベーションが上がりました」との感想が寄せられ、どのプログラムも盛況でした。

その他、シミュレーション体験、在学生交流コーナー、個別相談なども好評で、本学について理解を深めていただける機会となりました。



シミュレーター体験(BLS)

大学・入試概要説明 八木入試センター長



～手術室における医療安全を再考～
「平成30年度認定看護師教育課程合同フォローアップ研修」を実施

2018年8月18日、手術看護認定看護師を対象に「平成30年度認定看護師教育課程合同フォローアップ研修」を実施しました。全国から参加者が集まり、「手術室における医療安全」をテーマに4名の先生方に手術室における医療安全に関する最新のトピックスや具体的な取り組み事例をご紹介いただきました。参加者からは「医療安全に対する活動について再考する機会となった」と非常に好評な感想が寄せられました。



医療人育成研修センター長による開催挨拶

自治医科大学附属さいたま医療センター 亀森康子先生による基調講演



～医療や健康について学べる体験型イベント～
「なるほど医学体験!HANSHIN健康メッセ2018」を主催

学校法人兵庫医科大学は、2018年8月24日から26日まで、最新の医療や健康づくりについて楽しく学ぶことで健康意識を高めてもらうことを目的とした体験型イベント「なるほど医学体験!HANSHIN健康メッセ2018～遊んで学んで広がる健康の絆～」をハービスHALLで開催しました(共催:国立大学法人神戸大学、阪神電気鉄道株式会社)。

3回目の開催となった今年も、兵庫医科大学病院や兵庫医療大学がブースやセミナーなどを通じて様々な体験の機会を提供。初日に台風の影響があったにもかかわらず計1万人以上もの人々が来場されるなど、大盛況のうちに幕を閉じました。

■学校法人兵庫医科大学 関連プログラム

タイトル	内容	担当
超音波ブース「超音波(エコー)を体験しよう!」	エコー機器の操作体験、医師による「ラジオ波焼灼療法」の実演など	兵庫医科大学病院 超音波センター
IVRブース「迷路みたいな血管の中を探検しよう!」	カテーテルを使った手術体験、機器の展示など	兵庫医科大学病院 放射線科(※神戸大学と共同運営)
「AEDってなあに?」～救命救急を体験しよう～	子どもたちを対象にしたAEDの使用体験	兵庫医科大学
カラダとアタマのチェックラリー	反射神経、ステップ能力などを測る運動チェック、認知チェックなど	兵庫医科大学 リハビリテーション学部
セミナー「～外科医が教える～ どうなるの?からだの中身」	総を削り取りパーツを貼ったりして、からだの中がどうなっているかを学ぶプログラム	兵庫医科大学病院 上部消化管外科 藤原 尚 主任教授
セミナー「虫はすごいぞ!こわくない!!～知っておきたい虫による皮膚病のおはなし～」	昆虫の種類や生態、人への被害、対処法など	兵庫医科大学病院 皮膚科 夏秋 優 准教授
セミナー「意外と知らない子どものケンケン～身近に潜む「病氣」や「事故」から身を守る～」	子どもの身近に潜む危険についてのアドバイス	兵庫医科大学病院 小児科 服部 益治 特別招聘教授



子どもたちが医療機器の操作を体験



「THE世界大学ランキング2019」に
兵庫医科大学がランクイン

2018年9月26日、イギリス教育専門誌・Times Higher Education (THE)による「世界大学ランキング2019」が公表され、兵庫医科大学が世界総合ランキングにおいて801-1000位にランクインしました。ランキングで発表された86カ国1,250校以上の中には日本の大学が103校ランクインしており、兵庫医科大学はその中で第25位という結果となりました。

■「THE世界大学ランキング2019」に
ランクインした日本の大学

国内順位	世界ランキング順位	大学名
1	46	東京大学
2	65	京都大学
3	251-300	大阪大学、他
⋮	⋮	⋮
25	801-1000	兵庫医科大学、他



8/26

「第19回ささやま老人保健施設納涼祭」を開催。新理事長による似顔絵コーナーなどの催しが行われ、利用者のみならず、家族と楽しい夏の思い出を作られました。



8/31～9/1

臨床研修指導医を養成することを目的とした「指導医養成講習会」を開催。参加者は研修医の指導法を講演やグループワークを通じて学びました。



9/1

宝塚のソリオホールにて「第4回兵庫医科大学病院 市民健康フォーラム」を開催。「泌尿器科領域の最新のがん治療」をテーマにした講演を行い、237名の参加がありました。



9/7

ハラスメントに関する理解を深めることを目的に、「ハラスメントに関する講演会」を開催。参加した教職員は、熱心に外部講師の講演に耳を傾けました。





～最新機種でよりレベルの高い手術を～
「手術支援ロボット ダヴィンチXi」を導入

兵庫医科大学病院は、2018年8月に「手術支援ロボットダヴィンチXi」を導入しました。これまで、2012年12月に手術支援ロボットダヴィンチSを導入し、泌尿器科及び上部消化管外科領域においてダヴィンチ手術を実施してきました。

この度、最新機種となるダヴィンチXiを導入したことで、従来と比べてアームや内視鏡が細く、傷口が小さくて済むこと、また、アームの可動域がより広がったことから、手術部位へのさまざまな角度からのアクセスが容易になったことなど、手術がスムーズに進行し時間の短縮に繋がっており、患者さん及び術者の負担軽減が大いに期待できます。

兵庫医科大学病院では、ダヴィンチXiを導入したことで、より一層、安全で質の高い手術をめざしていきます。



ダヴィンチXi

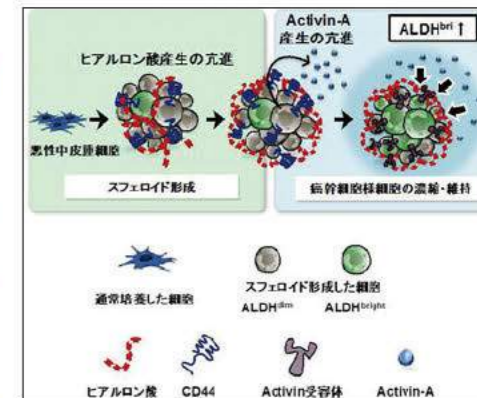


～薬学部 大野助教、田中(稔)教授らによる研究発表～
癌幹細胞の新しい制御機構を解明

兵庫医科大学 薬学部の大野 喜也助教、田中 稔之教授ら、および大阪大学 医学部等の研究グループは、悪性中皮腫における癌幹細胞の新しい制御機構を明らかにしました。

悪性中皮腫は予後が非常に悪い疾患で、新たな治療戦略の確立が求められています。本研究では、特定条件下で悪性中皮腫細胞を培養した結果、癌幹細胞様の性質を持つ細胞が濃縮されることを発見。加えて、その制御の中心となるシグナル伝達系を阻害したときの癌細胞の増殖阻害効果を示し、それらを標的とした悪性中皮腫の新たな治療戦略を提唱

しました。なお、本成果は、2018年7月30日に権威ある医学雑誌「Oncogene」に掲載されました。



▶詳細は医療大WEBへ



～女性研究者の未来を考えるシンポジウム～
「日経ウーマノミクスシンポジウム」に協力校として参加

2018年8月31日、大阪国際会議場で開催された「日経ウーマノミクスフォーラムシンポジウム～ダイバーシティ研究環境整備と女性研究者の未来～」に耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の任智美講師が参加しました。任講師はパネルディスカッション「教えて理系のキャリアパス」の中で、仕事のやりがいやキャリア形成、育児と仕事の両立について、企業や大学など様々な立場の女性研究者と意見交換を行いました。

また、中高生を対象としたミニセミナーでは、「医師って何をする？」をテーマに兵庫医科大学の卒業生である吉田 千見医師が講演。女性研究者の抱える課題や今後の働き方、未来について考えるとても貴重な時間となりました。



任 智美氏



～生理学 中村助教による研究発表～
記憶力の低下 呼吸が原因の一つであることを発見

兵庫医科大学 生理学 生体機能部門の中村 望助教と自然科学研究機構 生理学研究所の研究グループは、記憶力を下げる原因の一つが呼吸であることを初めて発見しました。今回明らかになったのは、過去の記憶を思い出すプロセスが、呼吸のタイミングによってうまく機能しなくなるということです。

この影響を事前に認識し対策をとることで、日常生活、仕事や勉強における記憶だけでなく、スポーツや車の運転など、あらゆる分野でのパフォーマンス向上に役立つことが期待されます。

▶詳細は法人WEBへ

なお、本研究成果に関する論文は、2018年9月15日に、国際科学雑誌「PLOS ONE」電子版に掲載されました。



医療従事者が“怒り”の心情と付き合うための講演会を開催

2018年9月13日、教職員を対象に「医療従事者のためのアンガーマネジメント入門」と題した講演が行われました。アンガーマネジメントとは、怒りの心情とうまく付き合うための心理教育のこと。当日は、米国NLP®協会認定の最上級の資格を持ち、最先端の心理学に精通している秋田大学医学部の蓮沼 直子准教授から「人間はなぜ怒りを覚えるのか」「怒りの鎮め方や対処方法」などについての話があり、聴講した教職員は業務中や日常のシーンを振り返りながら興味深く聞き入っていました。尚、翌14日も兵庫医科大学の4年次生を対象に「特別講義 アンガーマネジメント超入門」の講義が行われ、多くの学生が同様の学びを得ました。

※NLP…Neuro Linguistic Programing(神経言語プログラミング)、心理学と言語学の観点から新しく体系化した人間心理とコミュニケーションに関する学問のこと



講師を務めた蓮沼直子先生



「怒り」の原因を振り返る自己診断の話も



～東京薬科大学や遺伝学 大村谷教授らによる共同研究～
炎症の回復期に出現し、組織修復を促す新しい免疫細胞を発見

兵庫医科大学 遺伝学 大村谷 昌樹教授は、東京薬科大学、理化学研究所、熊本大学との共同研究にて遺伝子解析を担い、炎症や組織傷害の回復期に出現する新しい単球細胞を発見しました。

この細胞は、健常時や炎症・組織傷害の急性期にはほとんど存在しませんが、回復期になると骨髄で盛んに作られ、血液中に送り出されます。組織傷害部位に集積すると、炎症抑制や組織修復に関わるタンパク分子を産生し、傷ついた組織の修復に寄与します。この単球細胞を消去したマウスでは、腸炎の回復が遅延したことから、この細胞が炎症収束や組織修復を担う役割の重要性が証明されました。

▶詳細は法人WEBへ

本研究成果に関する論文は、2018年10月5日に米国科学誌「Science Immunology」に掲載されました。



9/8～9

関西5医科大学*が集まり、「研究医養成コース コンソーシアム合宿」を開催。学生たちは日頃の研究成果について発表を行い、他大学の学生や教員と交流を深めました。

*兵庫医科大学、関西医科大学、大阪医科大学、奈良県立医科大学、神戸大学



9/27

小児科病棟の入院患児を対象に「絵本の読み聞かせ会」を開催。患児たちも参加し、笑顔あふれるイベントとなりました。



9/29

兵庫医科大学にて、全学部在学生の保護者を対象とした「第12回保護者懇談会」を開催。約400名の保護者にご出席いただき、大学現況などについて担当者より報告しました。



9/10、18、10/4、5

「患者の安全の確保」を学ぶため、4年次生を対象に「医療安全管理と薬害」講義を実施。担当教員や薬害被害者、弁護士、外部教員の講義に学生たちは真剣に取り組みました。

